



愛媛県 有限会社 善
「ビーチを救え！ストップ・ザ・CO2
第6回エコカップの開催」事業



有限会社 善
営業本部長
田内 了さん

清掃活動と
ビーチバレーの試合を
組み合わせた大会で地域貢献

環境問題への意識向上にも役立つ大会を実施

オリンピック種目として定着したビーチバレーボール。日本でもアイドル的な選手が登場するなど、人気が高まりつつある。愛媛県は「マドンナカップ」という女子ジュニアの大きな大会が開催されるなど、ビーチバレーの盛んな土地のひとつだ。

愛媛県を中心に「パチンコ天国」、「グランディール天国」9店舗を展開する善(天国グループ)では、毎年8月に一般参加者を対象とした「天国グループプレゼンツ ビーチを救え！ストップ・ザ・CO2 エコカップ」を特別協賛という形で開催している。

2007年にスタートしたエコカップは、昨年で6回目の開催となった。「記事や広告の掲載でおつきあいのある松山市のタウン誌のスタッフがビーチバレーをやっています、そこから大会開催を持ちかけられたのがそもそものきっかけです」と、営業本部長の田内さんは語る。愛媛県ビーチバレーボール連盟と協力しながら、この大会を開催することにしたという。

この大会の大きな特徴は、単にビーチバレーの試合を競うだけでなく、「ビーチを救え！ストップ・ザ・CO2」という大会名にもあるように、試合前に参加者全員で会場となる北条長浜海岸の清掃を行うことである。「約30分ほどの清掃ですが、流木などを含め、毎回かなりの量のゴミが集まります」と、田内さん。この清掃活動を組み合わせることで地域への貢献度が一層高まっている。同グループでは大会前日の設営を含め、当日の運営、表彰式まで社員が関与すると共に、選手としても参加して大会を盛り上げている。「一昨年は天候不良で、途中で中止となってしまいました。屋外競技なので、最大の不安定要素は当日の天候ですね。ホームページやポスターなどを使った参加チームの公募、運営上の調整などは回を重ねることで軌道に乗ってきましたので、特段、難しいこともありません」と話すのは、松山エリア統括店長の藤原和彦さん。



参加者全員で行った海岸の清掃活動



開催した「ビーチを救え！ストップ・ザ・CO2」



計30チーム・150名が参加し、熱戦を繰り広げた



小学生を対象としたビーチバレー教室



教室に参加した小学生に記念品(バレーボール)を贈呈

新たな試みや継続して行われている地域貢献

昨年の大会には、Aクラス(経験者)、Bクラス(ビギナー)に計30チーム・150名が参加し(役員や関係者を含めると約180名)、男女混合4人制で熱戦が繰り広げられたが、約8割が愛媛県内、残りが四国の他県のチームだったという。ちなみに、天国グループの従業員チームは4チームが参加した。大会の様子は、地元テレビ局などのローカルニュースとして報道されている。

さらに昨年は新たな試みとして、小学生の子どもたちを対象とした「ウイングプロジェクト」を立ち上げた。これは、元オリンピック選手で、愛媛県出身の清家ちえさんを講師に招き、地元小学校のバレーボールチームを指導するというもので、5チーム・約40名の子どもたちが参加し

た。ビーチバレーのすそ野を広げると共に、子どもたちの健全育成という意味でも、これもまた同グループによる社会貢献活動のひとつといえるだろう。

「地域に愛される企業」を企業理念のひとつに掲げる天国グループでは、このほかにもさまざまな地域貢献活動を行っているが、そのひとつとして長年、取り組んでいるのが、「24時間テレビ 愛は地球を救う」への特別協賛である。この協賛では寄付金の贈呈に加え、同グループのスタッフが「天国チャリティー縁日」を企画・運営しているが、昨年は南海放送内に設けられたブースで、スーパーボールすくいや射的など、子どもたちに人気のある出し物を実施した。なお、縁日の収益も、すべて24時間テレビに寄付された。